

## 「愛語の力」

広島県 鳳林寺住職 原田 良 浩

「愛語」とは、他者に心のこもった優しい言葉をかけることです。昨年、私は思いもかけない感謝の言葉をいただきました。詳しくお話しますと、ある方が私に感謝していることを知人が伝えてくれたのです。私の話が、とても印象に残り、共感できて良かったということでした。これを聞いて、私はとても驚きました。私に感謝していると言った方は、これまで私が少し苦手と感じていた方でしたので、思いがけないうれしさと同時に、その方への申し訳ない思いもありました。

曹洞宗の經典である「修証義」の中に、

「面むかいて愛語を聞くは 面おもてを喜ばしめ 心を楽しくす

面むかわずして 愛語を聞くは 肝に銘じ 魂に銘ず

愛語 能く廻天の力あることを学すべきなり」

といつお示しがあります。

「愛語 能く廻天の力あることを学すべきなり」とは、「愛語」が人の心を変える力を持っているという意味です。私の知らないところで私への感謝の言葉を言ってくくださったことに、私は心の底から感動し心が揺さぶられました。私のその方への思いは、苦手な感情から親愛の情へと変わったのです。

世の中には、陰口や悪口を言う人が少なからずいます。また社会問題にもなっているSNSでの誹謗中傷によって、人を傷つけ苦しめるような 社会になっています。本当に悲しく憐れなことです。『愛語』のある世界とは、真逆の世界になってしまっています。

もし、世の中の多くの人が、「陰口」ではなく陰でいいことを言う世の中になったなら、世界は明るく変わるはずです。SNSへは誹謗中傷ではなく、誉め言葉や感謝の言葉を書き込むようにする、普段の会話でも、悪口でなく、誉め言葉を話すようにする。そんな人が増えていけば、もっと、心安らかな社会になるのではないのでしょうか。感謝の言葉は私の心に深く刻み付けられ、今でもそのことを思い出すたび、生きる勇気が湧いてくるのです。